

## プロジェクトリーダー:名古屋学院大学 スポーツ健康学部 中野貴博教授

### 事業実績調書

(1) プロジェクト名	現代の子ども達における運動の価値の再発信
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>本プロジェクトでは、現代の子ども達における運動の価値を再発信するための調査を実施し、その成果を公表することと、その結果に基づいた実践を展開することを狙いとした。新型コロナウイルスの影響で活動は大きく制限されたが、調査に関しては、何とか年度内に市内の全児童および保護者を対して実施することができた。また、当初計画に加えてコロナ禍における運動・スポーツ活動や生活習慣等の変化に関する調査も同時に行うことができた。残念ながら、活動時期の大幅なずれ込みにより分析・集計まではできなかったが、体力向上等の身体的な部分に加えて、多くの教育的効果に対する保護者の期待や児童自身の成果を調査することはできたと思われる。今後、分析を進めることで子どもにとっての運動が持つ意味やその価値を教育的観点から示すことが可能になる。また、運動実践に関しては、実践活動の代わりに、これまでの経験と知見を集約させた運動指導冊子を瀬戸市の運動促進実務者会議メンバーと作成することができた。小学校教員全員に教科書配布と同じタイミングで配布を計画しており、これにより、子ども運動の促進、充実が進むことが期待できる。</p>	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	
<p>R2年4月：本研究課題における調査および実践活動に関して瀬戸市教育委員会指導主事と確認 しかし、新型コロナウイルス蔓延の影響により制限解除までは活動を自粛</p> <p>R2年4月16日：国の緊急事態宣言を受けて、計画の一時中断</p> <p>R2年5月：小学校教育カリキュラムでの大幅な遅れを鑑み1学期中は本課題の活動を自粛</p> <p>R2年8月：教育委員会の指導主事と小学校現場の現状と2学期以降の活動について打合せ 2学期以降に調査活動を準備、実施していくことを確認。実践活動に関しては検討を継続</p> <p>R2年9月：瀬戸市の運動促進実務者会議にて調査内容について協議 また、実践活動に関しては、年度内に何らかの形で実施することを模索</p> <p>R2年11月：子どものスポーツ活動および運動の価値、コロナ禍における運動・スポーツ活動および生活習慣等の変化に関する調査を作成完了</p> <p>R2年12月：調査用紙の印刷、封入。対象の決定 ⇒ 瀬戸市内の全児童および保護者 実践活動実施の困難を受けて、運動挑戦カードおよび指導冊子の作成を計画</p> <p>R3年1月：調査の配布、回収 ⇒ データ入力依頼 (年度内完了予定) 運動挑戦カードおよび指導冊子の原稿完成</p> <p>R3年2月：運動挑戦カードおよび指導冊子の作成依頼 ⇒ 年度内完成予定</p> <p>R3年4月：運動挑戦カードおよび指導冊子を全小学校教諭に教科書と一緒に配布予定 調査結果を瀬戸の運動促進連携会議にて報告</p>	
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	
<p>本年度は新型コロナウイルスに影響を強く受けて実施時期が大幅にずれ込んでしまった。特に、実践的活動に関しては、ぎりぎりまで何らかの形での実施を模索したが、再度の緊急事態宣言などにより実施することができなかった。そんな中でも調査実施および実践活動のための指導冊子を作成した。しかしながら、実施時期のずれ込みも影響して、調査結果の分析や指導冊子の普及、それに基づく指導実践はできていない。今後は、これらを実現していくことが課題である。調査結果に関しては、現代の子どもに対して運動が持つ価値を広く普及させること、そして、それも踏まえた指導実践を展開していきたいとかがえている。</p>	